

芭蕉と深川

深川芭蕉庵

芭蕉は、延宝8年（1680）、日本橋から深川に移り住み、約14年間、この草庵を拠点に活動し、「古池や蛙飛こむ水のおと」など多くの名句や『おくのほそ道』などの紀行文を残しました。

深川の草庵は、はじめ「泊船堂」といいましたが、門人の送ったバショウの株がよく茂り、人々は「芭蕉庵」と呼ぶようになりました。

●芭蕉庵はどこにあったの？

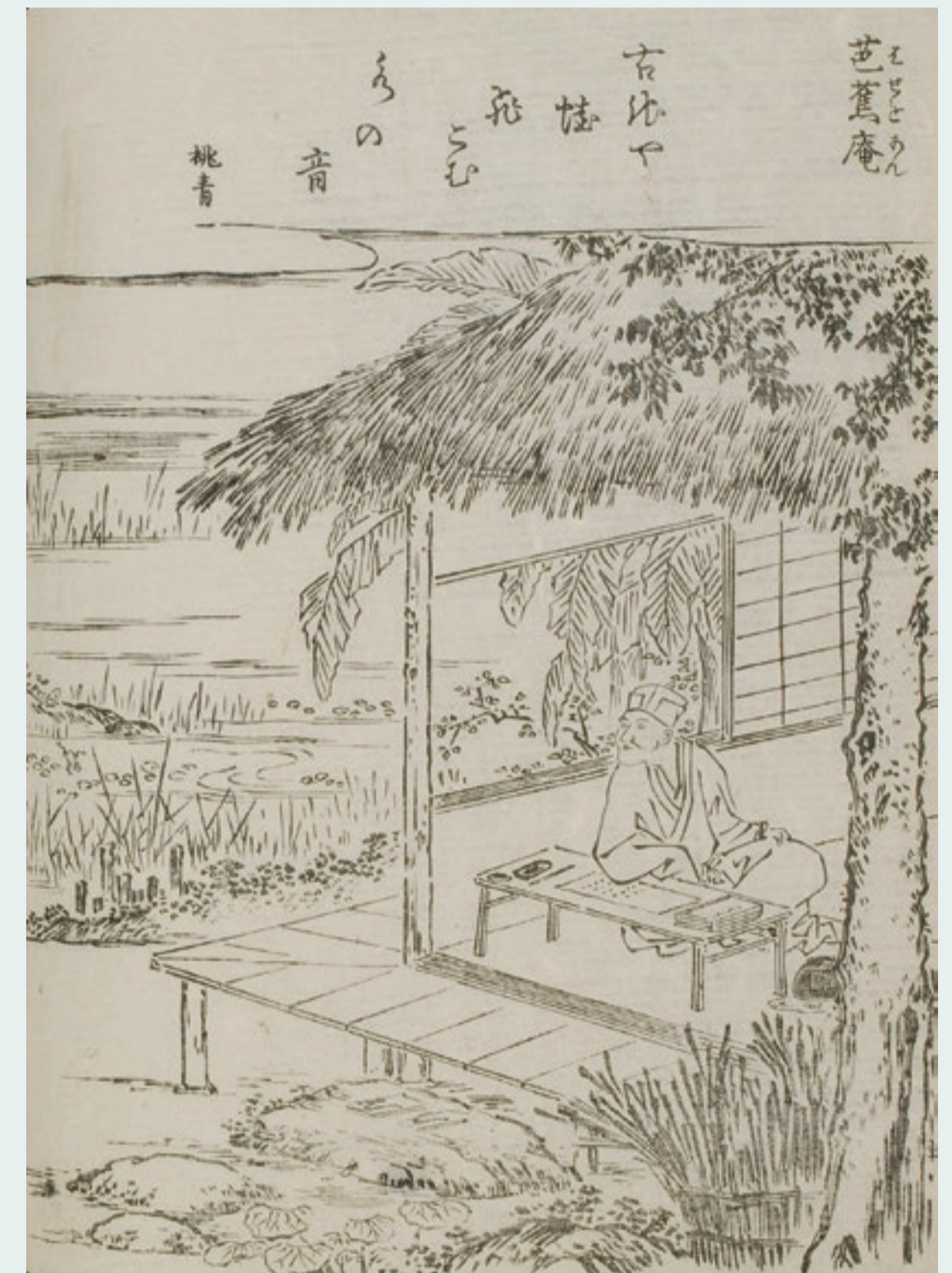
芭蕉は、深川に住むようになった後、2回住み替えています。いずれの場所も、隅田川と小名木川に挟まれた川辺だったと考えられています。

芭蕉庵の様子

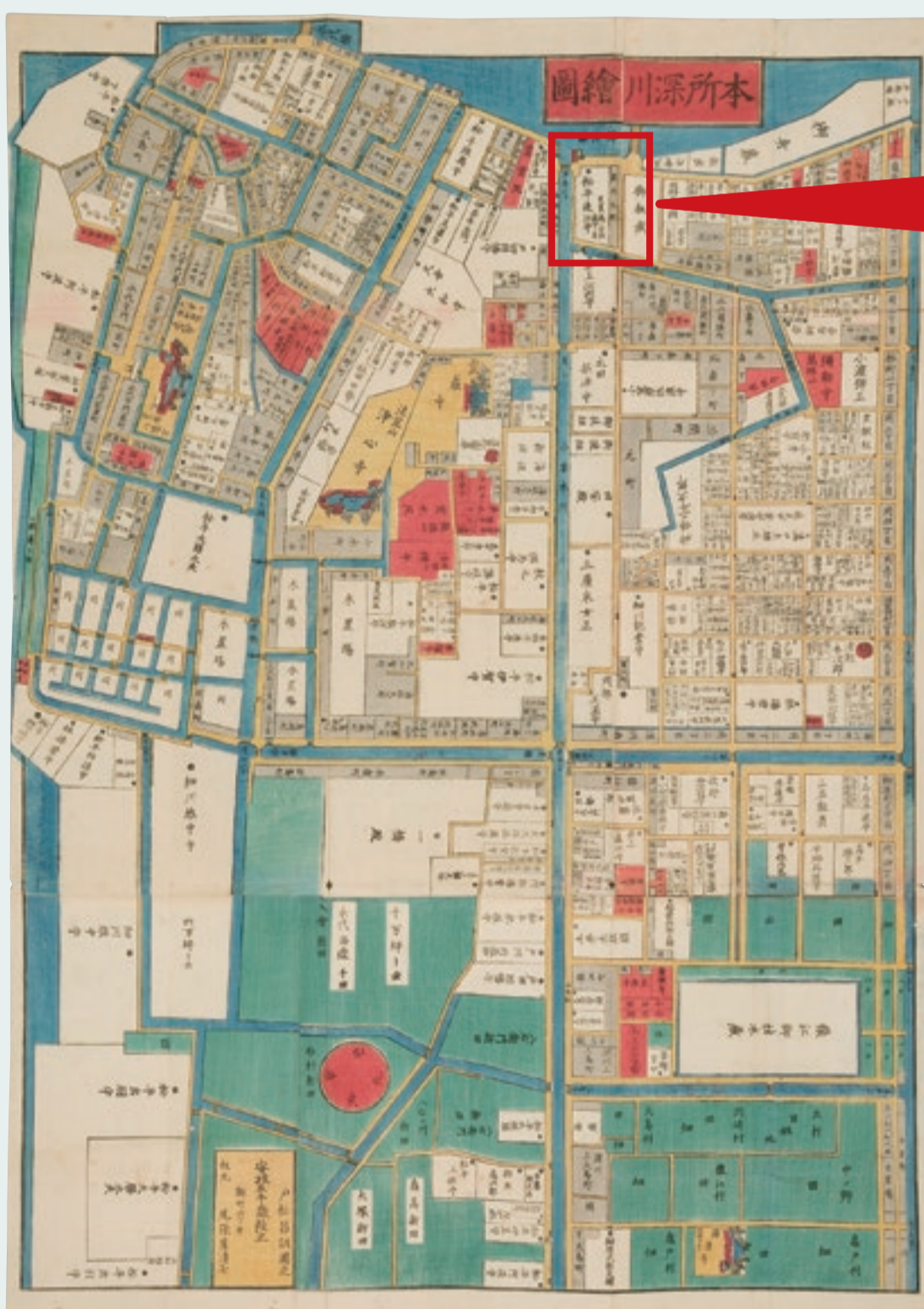
頭巾をかぶった芭蕉が句を練っています。庭にはバショウの株・竹・飛石・古池が描かれています。

芭蕉庵はどうなったの？

幕末には大名屋敷の中に残されていたようです。



「芭蕉庵」『江戸名所図会』
天保7年(1836)



「本所深川絵図」安政5年(1858)



松平遠江守の屋敷内に
「芭蕉庵ノ古跡庭中ニ有」
と記されています。

白鷗画・溪斎賛「こよひ誰」句
芭蕉坐像図



江東区 ゆかりの人

松尾芭蕉